多少讀みにくゝあり，總じて，第1版に比べると，何となく書物のドッシリした重みがなくなつたやうに感じる.—— こんな事は枝葉の問題であるが.

（第197頁の下部から第3行目にFall sein wird, so といふ4語が落ちてゐる）. 誤植は殆んど無い.

こんな書物が日本語にも慾しい.

此の書物と共に使用されるかの Tafeln zur theoretischen Astronomie（同著者の）も目下第2版製作中であるといふ.（山本）

アイヌの暦

アイヌには暦がないさうだ自分の年や生年月日なども勿論覺えてゐないといふ. ところがシコタン島のアイヌは，板の表に穴をあけて毎朝それに一本の小木片を立てゝ日を數へるさうである. 多分日本の暦を眞似たものであらう.

或るアイヌは一年を十二ケ月に分て陰暦の正月を『ト・イ・タンネ』（長い日といふ）二月を『ハブラブ・チユプ』（鳥の啼く月をいふ）三月を『モ・キウタ・チユプ』（草根を掘り始める月といふ）五月を『モ・マウ・タ・チユプ』（玫瑰を採り始める月といふ）六月を『シ・マウ・タ・チユプ』（玫瑰を多く採る月といふ）七月を『モ・ニヨラブ・チユプ』（葉の落ち始める月）八月を『シ・ニヨラブ・チユプ』（葉の落ちる月）九月を『ウンポウ・チユプ』（蹠の冷たい月）十月を『シユナン・チユプ』（火で鮭を漁る月）十一月を『イ・ニ・カイ』（弓折れ月）十二月を『チウ・ハブ・チユプ』（潮が速い月）と別れてある.

吾々日本人の祖先もやはり昔はこんな名詞を用ひて十二ケ月をいひ現してゐたもので，例へば三月の彌生は草木の發生を意味し四月の卯の花月は卽ち卯の花の咲く月であり又五月の皐月はサナヘ月の略であつた. 殊に八月の葉月といふのは，アイヌ人と變りはない. また十一月の霜月も說明するまでもない.

又アイヌは鮭漁を以て年の區切りとなしてゐる. 三年經つたことを『鮭を取つて，鰊を取つて又鮭を取つて』といふさうであるこの表現法は日本の古代にもあつたとの事である.